

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2025年

4月

236号



花まるり
五風かく

山々に
鐘
こだま

- ◇ 人生は命の駅伝たすきりレー
りようじゆさいこん
- ◇ 良樹細根
- ◇ 錯覚が苦を作り出す



ホームページ

宗教法人 真生会

令和七年信仰目標

仏の智慧を身に付けよう!!

『自分の成長と人救いのために』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

春季彼岸先祖大法要

春分を迎え、総本山・各教会において春季彼岸先祖大法要を執り行った。会長先生が各教会へご巡教され、導師として読経供養が厳修された。ご真教法話の中で六道輪廻に触れられ、苦や悩みがある状態の人間界からのみ仏界へ至ることが出来ると説かれた。最後に会員信者同士、それぞれの感じたことなどを話し、深め合いの法座を行った。



会長先生による読経供養



真剣に耳を傾け、法座が行われた



供物を仏様に捧げる子供奉獻



真心が込められた御詠歌（大阪教会）



熱心に法話を聞く信者（名古屋教会）

大阪教会 新築建て替え寄進 ～申込受付中～

申込期間：令和7年12月末まで

納入期限：令和8年3月末まで（分納可）

※詳しくは総本山・各教会にお尋ねください。

〜ご奉仕だより〜

真生会では参拝者が護摩木に願いごとや追善供養等を書いて奉納し、読経において護摩木供養が読上げられる。この護摩木の文字は会員信者のご奉仕によって印刷されている。近年は大阪教会の滝山裕康さん（御年87歳）のご奉仕で印刷された護摩木が総本山・各教会に届けら



笑顔を見せる滝山さん

れている。長年にわたり、一体の護摩木に心を込めて丁寧に文字を刷り込みされており、「皆様の祈願が成就して頂けますように」という思いで奉仕をしていると語られた。しかし、この度の大阪教会新築建て替え事業に伴い奉仕場所が設けられないことやご自身も高齢になられたことで、今後は総本山にて護摩木印刷が引き継がれることになった。滝山さんの長年の尊いご奉仕に感謝申し上げます。



教会別館で奉仕する様子

総本山では有志のご奉仕をお待ちしております！



総本山真生寺の光徳会館に護摩木印刷奉仕所を設置



罪障消滅開運招福護摩供と印字されている



開祖さまのみ教え

開祖 田中 偉仁

たなか ひでひと

仏法では「因縁を知るが知者なり、因縁を知らぬは愚者なり」また「因縁とあきらめるな、因縁を乗り越える道に生きよ」と教えています。

正しい信仰によって因縁を乗り越える道を真剣に学び実行してこそ大安心の生活が築けるのです。今日は幸福そうな生活が出来ていても、どここの家庭でも先祖、親以来面々と流れて来た良き因縁もあれば悪い因縁もあります。何十代も昔の先祖のことは分からなくても両親や祖父母に悲しい因縁があり、自分も過去において軌道はずした歩みをしてきたとしたら、自分が目覚めて穴埋めをしない限り、自分か子供や孫が落ち込む悲劇が訪れます。故によく反省懺悔し、訂正の努力が必要です。同時に「今によくなる。今に道が開くと明るく考えること」が明るい人生を迎える心構えなのです。これを因縁を知る人は知者なりと仏さまは申されたのです。

(1984年、真実に生きる48号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇人生は命のたすきリレー

二千五百年前、お釈迦さまは現代社会にも通ずる革新的な教えを説かれました。すべての生きとし生きるものには仏性があり、生まれながらにしてその命はみな平等に尊い。

そして、人間の価値は家柄や学歴や地位によって決まるものではない。その人の行いによってのみ、その人の価値が決まると教えられました。

カースト制度という生まれながらの厳しい身分制度のあったインドでは考えられないような画期的な教えでした。

しかし、現実には今世生まれた家によって、産んでくれた親によって、人生の出発点が違うのはなぜでしょう。

人生は親から自分へ、自分から子への命のたすきりレーと言えます。駅伝のたすきりレーと同じで、前走者である先祖や親から命を受け継いだ時に一般社会での順位が異なります。已む終えないことです。それは自分の前世の業（行い）にも因るのです。これを六道輪廻と言います。

人生はありのままを、在るがままに素直に受け止めることが、苦悩から解放される第一歩です。

親のせいにしたり、社会のせいにしたり、時代のせいにして怨みや瞋りや嘆きをいつまでも引きずって、現実は何も変わりません。

受け継いだ命のたすきをしっかりと肩に掛け、前を向いて走り出すことです。受け継いだ順位はどうすることもできませんが、自分の努力と走り方次第で逆転することも可能です。自分の受け継いだ順位に執われず、善行を



春
か
ど

積んで徳分を高めて子孫に命のバトンを渡すことが自分の使命だと決意し、どんなに辛くても途中でリタイアしないことです。途中で休んでもいい、歩いてでもいいから完走し、命のたすきを繋ぐ勇氣を持ちましょう。

阿難あなんというお釈迦さまの弟子が、ある夏の暑い日、祇園精舎ぎおんしょうじやに帰る途中であまりにノドが渴かわいたので、樹の蔭で一人の若い少女が手桶ておけに水を汲んでいるのを見て、一杯の水を求めました。

阿難に言葉をかけられた少女は、小さな声で「私は卑いやしい素性すじようの女です。あなたのような尊たかい身分の方には、あげたくもあげられません」と断ことわりました。その少女は首陀羅しゅだら（カースト制度の最下級の賤民せんみん）という身分の女性だったのです。

阿難は、優しく少女を慰なぐさめて「人間は生まれながらに貴賤きせんが定まっているのではない、仏の教えは一切の人々は、生まれながらに平等であり、自由だと教えられているのです。どうか遠慮なさらずに私に水を一杯布施して下さい」と少女を励うましたという逸話があります。

◇良樹細根りようじゆさいこん

根が広く深く張っていけば必ず立派な良い木になるという意味です。根をおろそかにして良い木に育つことはありません。

目に見えない先祖や親という根を大切にし、人目に付かない所（地下）で黙々と善行の努力して人生の根を張ることが大切なのです。根が浅く小さく、目に見える枝葉ばかりが大きく茂って、頭が大きい過半数の大木は大風が吹くと根こそぎ倒れてしまいます。学歴や地位やお金儲けという枝葉が大きくなるほど支える根を大きく張らないとバランスが崩れていずれ倒れてしまいます。

一時期は成功して調子が良さそうでも失敗する人と、どこまでも発展していく人の差は根っこにあるのです。

「今日あるは親のお陰と感謝して」と教えられます。

どんなに地位や学歴があり大活躍していても、親のことが馬鹿に見えたり、尊敬できなくなったり、小さく見



えだしたら人生の注意信号です。自分の胸に手を置いてよく考え、赤信号が点灯する前に切り替えましょう！

◇錯覚が苦を作り出す

九十歳過ぎの熱心なご信者から沈んだ声でこんなお電話がありました。

(ご信者) 用事があつて裏庭に行つた時、歩き慣れた階段で転倒し背中を強く打ちました。何の罪でしょう。何の心得間違いでしょう。会長先生教えて下さい。

≪いくつになつても、何事についても自分を反省し、師に添削を受け、心を正そうとする信仰者の姿勢は素晴らしいですね！≫

(会長) それは大変でしたね。骨は大丈夫でしたか？どこかひびが入ったり、骨折はしませんでしたか？

(ご信者) ハイ、あちらこちらは痛いですが、骨には異常はなく打撲だけで済みました。

(会長) それは良かったですね。あなたの年齢で骨折して寝込んだら、寝た切り老人になつてしまいますが、大難が小難で守られたと喜んでください。

(ご信者) 本当にそうだと思います。転倒したのは土曜日の夕方の事でしたが、

その日は息子も嫁も勤めが休みで、それも夕方でしたから二人とも家に居りました。息子が気遣ってすぐに病院に連れて行ってくれ、帰ってきたら嫁がお風呂を沸かし、夕飯を作って待っていてくれました。

平素は生活の時間帯が違い、自分の事は自分でやっておりますので、年寄りの事は放はなつたらかして自分ばかりきつと邪魔じゃまなんだと、年寄りのひがみで卑屈になっていました。いざつという時は、ちゃんと心配してやってくれるんだと安心し嬉しく思いました。

(会長) おばあさん、そこですよ。そこが大切なところですよ。息子や嫁は年老いた母のことを粗末にはしていないことに気付かせてもらうための仏さまのお手配だと思えますよ。仏さまが、教えて下さったんだと思えますよ。これからは大安心で老後の生活が出来ますね。

(ご信者) 会長先生有り難うございます。私も何となく



あなたが輝けば
みんな輝く

仏さまが教えて下さったのかなあと思っていました。とお話を聞いて安心できました。と、明るい声で電話が切れました。

この世の中は「苦の娑婆しゃば」ですから、苦を無くすことはできませんが、苦から解放され、煩惱ぼんのうありと雖もいえど煩惱なきが如く大安心の生活するための「仏さまの智慧」が仏教なのです。

「火の車作る大工はおらねども、己おのが作りて己が乗りゆく」

凡夫は自分で煩惱（欲、怒り、愚痴）の火で作られた車に乗って、苦しみの炎に包まれながら人生を走っているのです。苦⇨煩惱⇨錯覚なのです。

煩惱とは ≧すべてを自分という我を中心において世の中を見て、自分の思い通りにしたい、思い通りになるといふ思い込み≧なのです。

これを錯覚と言います。故に自分が「錯覚していることを自覚する」ことが苦から解放される第一歩なのです。

この老婆が転倒という出来事を通じて、息子たちに対する思い込み、錯覚に気付けたからこそ安心が生まれたのです。

これこそが仏さまのご守護でありご利益なのです。

先師の名言、名句

◇道 報恩・忍ぶ・喜び (田中偉仁開祖さま書・京川春男氏所蔵)

真生会開教十年、開祖さま六十四歳、全国布教に先頭切つて東奔西走され大活躍の頃の力強い書です。

私たちは仏道という「道」を信じて歩んでいます。その道を正しく歩む心構えが書かれています。親の恩、師の恩、衆生の恩、報恩の人生こそ幸せの土台なのです。「忍」は我慢ではありません。憂き辛き心に添わぬことをみな「喜び」に切り替えた時、だれでも幸せになれるのです。開祖さまの生き様、ご法の信念を記された書です。噛みしめましょう。



今月の運勢（5月）

（2025年5月5日～6月4日）

一 白水星

節目を大切にすること。竹は柔軟で節があるから折れにくい。苦難や失敗という節を大切にし、ブレない強い心を持って大きく伸びることが出来る。収穫も期待できるが節度を保つこと。

二 黒土星

常に低姿勢で謙虚さを忘れなければすべて吉となる。謙虚とはへりくだり卑屈になることではない。相手に教えてや周囲の支えに気が感謝する心である。

三 碧木星

豊かで盛大な時だが、

突然増えたものは突然減る危険がある。好調な時こそ慢心せず、非常時に備えて内面の充実を心がけよう。自信

四 緑木星

過剰になると信頼する人から裏切られる。良いことも悪いことも離散する時。環境の変化に臨機応変にリセットしてゼロから再出発すればよい。離散とは現状打破の好機ととらえよう。守るべきことは守り、切るべきは切る覚悟を持つこと。

五 黄土星

今月の後半から運気は上昇に転じ始める。コツコツと基礎作りをす

六 白金星

運気は着実に上がっていく時なので、小細工をせず自然体で堂々と進めばよい。策士策に溺れる危険がある。打算や軽率な行動は慎み、正道を歩むことを心がけること。

七 赤金星

高運気に乗じて大いに行き過ぎる恐れあり。過ぎたるは及ばざるが如し。想像以上の成果に舞い上がらず、一旦立ち止まって冷静に考

る時。情けは人の為ならず、親切に接すれば利は大きい。基盤汚れは力を失うので整理整頓をしっかりと。

八 白土星

八方塞がりの時だが、実力は充実しているので、どんと腰を据えて周囲の状況を見極め、英気を養おう。焦った

九 紫火星

り慌てて行動をしないこと。新しい事や大きな事はしないように。

十 紫火星

大きな成果が得られるが、それは自分の実力だけではなく、上位の人や天の助けがあつてのことである。慢心すると思わぬ危険が訪れる。人の意見をよく聞き、陰徳を積むことを心がけること。

十一 紫火星

大きな成果が得られるが、それは自分の実力だけではなく、上位の人や天の助けがあつてのことである。慢心すると思わぬ危険が訪れる。人の意見をよく聞き、陰徳を積むことを心がけること。

「まごころ誌代」御礼

土川順寛	田中理夏子	横井志奈子	今園花菜	出田 溪
土川恭代	田中宏明	多田正幸	笹原トミ子	正田恵津子
土川康二	田中花音	多田道子	笹原正子	滝本光夫
土川廣美	田中佑季子	多田敏春	奥田佳代	斉藤玲子
横山知津子	田中庸仁	早野起世	堀田純子	亀井善二
某女	堀部恭利	大橋千枝子	平口富子	岸本周夫
山本季美衣	高橋身衣	宮田雄貴	大下裕子	岸本昌子
佐藤百々枝	山田佳延	小村友子	坂本育身	田島伸一郎
佐藤光洋	足立和美	出田 渚	谷口祐晟	某氏
伊東 晃	黒田京子	長尾夏芳里	谷口祐子	福元正子
安田初子	松尾定洋	宮島りえ	坪井祥子	木村茂樹
木村正美	平工晴康	永田雅子	石丸祐視子	長井常子
豊田直正	鈴木快法	荒木敬依子	野村佳那衣	鈴木正巳
豊田真悠子	飯田修五	滝山恵依子	野村雄太	京川春男
亀井善広	多田佳央	今園信子	樋口恵美子	東森敦己
亀井由実子	飯田昌子	今園達也	樋口容子	川添八千代
熊田啓予	横井明彦	今園雄一郎	細谷早予子	
田中祥陽	加納啓至	今園雄太	清崎聖良	

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

《正見》

相手をどう見ているか
という自分を見よう。
そうすると相手が
スーッと入って来る。
自分を正しく見れば相
手の本当の姿が見えて
来る。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|------------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒 501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒 500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒 532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒 454-0808 | 名古屋市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします